

2年度 学校だより 10月号 9月30日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 石田 薫

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子



言葉の力

校長 石田 薫

残暑が去り、ようやく秋風の心地の良い季節になってまいりました。日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力を頂き感謝しております。

2か月の一斉臨時休校から始まった令和2年度の前期が終了します。感染症拡大防止のため、配慮・自粛・工夫等今までとは違った生活になりました。

先日、教室を回っていると4年生が応援団を決めていました。応援団になれる人数は一クラス4人。立候補者は5人。

「僕は、応援団長に憧れていました。6年生になった時に応援団長になるために、ずっと1年生から3年間応援団に入って頑張ってきました。だから今年も応援団に入りたいと思っています。」

「私は、小さい時から声が小さくて、応援団で頑張ることによって、大きな声を出せるようになるために立候補しました。」…等々

どの子も自分の言葉で、自分の気持ちを伝え、挑戦しようという勇気が伝わってきました。聞いていた子どもたちは、「難しいな。選ぶのは…。」 「みんな、いいなあ。」と心温まる言葉の数々。先行き不透明の中、子ども達の勇気ある言葉、温かい言葉で、元気をたくさんもらいました。

「万葉集」の柿本人麻呂の歌に「しきしまの大和の国は 言霊の幸(さき)はふ国ぞ ま幸(さき)くありこそ」という歌があります。「言霊の幸はふ国」とは「言葉の力で幸せをもたらされる国」を意味します。日本は昔から、言葉に霊力が宿ると考える「言霊信仰」があり、美しい心から生まれる正しい言葉は、その言葉通りの良い結果をもたらすとされてきました。確かに勇気ある言葉からは勇気を、温かい言葉からは温かさをもらいます。また、残念ながら逆の場合もあります。

さて、巷では、まだまだ感染症拡大が心配されているところです。我々ができることは、こまめな手洗い、ソーシャルディスタンス等々そして、何よりも感染者が出た時には、冷静に対応しつつ感染者やご家族に温かい言葉かけを行い、中傷や差別的な言動が生まれない学校でありたいと強く思っています。

どうぞ、ご協力をお願いします。